

## 「越境」する Multilingual Scholars になる

—日本で博士号を取得し中国の大学で働く日本語教師の現状と課題—

### ■ 話題提供 ■

黄均鈞さん(華中科技大学外国語学院)

董芸さん(深圳大学外国語学院)

田佳月さん(西安外国語大学日本文化経済学院)

徐愷萌さん(華中科技大学外国語学院)

### ■ 日時 ■

2022年10月29日(土) 14:00~16:00

オンライン開催 (Zoom)

※参加費無料 要事前申込

お申込は[こちら](#)から

※非会員の方もご参加になれます。



近年、博士号を持つ中国人留学生が大量に帰国し、中国の大学で日本語教師として勤めるというケースが見られるようになりました。2015年11月、中国教育部は高等教育システムの国際競争力を高めるため、「世界一流大学・一流学科建设」の実施方法を発表しました。この目標を達成するための重要なアプローチは、大学教員の研究成果を最大化することです。しかし、中国国内の言語市場から見れば、日本語に比べ、中国語と英語が圧倒的に価値の高い学術言語と言えるでしょう。

一方、日本で学術的なトレーニングを受けた元留学生は、主な学術言語として日本語を使用するがゆえに、中国語と英語による学術リテラシーをほとんど持っていません。そのため、帰国後の学術出版や個人の学術的な発展において大きな課題に直面すると予想されます。

この企画では、日中投稿雑誌の規範及び大学の若手日本語教師の学術実践への調査結果を踏まえ、上述したような課題の全体像を共有したうえで、困難な局面を打開するために必要となるであろう新しい視点について、参加者のみなさまと考えます。

